

静岡理工科大生

袋井の観光振興提言

W杯や五輪パラ見据え

袋井市の静岡理工科大の学生が市内の振興策を考える「地域学講座」の提案発表が22日、同大で開かれた。地元開催の2019年ラグビーワールドカップ(W杯)や20年東京五輪・パラリンピックを見越した観光振興を提言した。



提案を発表する学生＝袋井市の静岡理工科大

市と同大による同講

座は18年度が5年目。

袋井への観光客誘致をテーマに1、2年生28人が6グループに分かれ、この日までにフィールドワークなどに取り組んだ。市内のごみ箱不足を懸念するグループは、独自のごみ箱の開発を提案。二つの投入口でW杯の勝敗予想を盛り込んだごみ箱や、英語表記を用いることで話題性やごみの回収率の向上につながることを強調し、ポイ捨ての解消にもつながると訴え

市内の観光施設の認知度不足や、宿泊施設の少なさも課題に挙げた。その上で学生は大勢の外国人の来訪を念頭にした情報アプリの開発やSNSの活用の重要性を唱えた。

1年の池本拓生さん(20)は「遠州三山やエコパなど全国に誇れる観光施設はある。PRの方法を考えてリピーター作りを取り組む必要があるのでは」と分析した。

(袋井支局・伊藤龍太)